をほどい

No.45 2017.4

霊峰英彦山

英彦山は、福岡県と大分県に跨る、大きくて個性的な山です。山の頂は、北岳 (1192 m)、中岳 (1188 m)、南岳 (1199 m) と称される、三つの峰に分かれています。さらに北岳の脇には、ごつごつとした一の岳、二の岳、三の岳からなる、鷹ノ巣山 (979 m) が従っていたりします。常ならざる威厳を感じる姿です。また山内は、植林が目立つようになった昨今では、往時にこそ及ばないとはいえ、動植物の楽園としても知られています。

このような英彦山は、昔々から、聖地として尊崇を集めています。伝説では、継体天皇25年(531)に、北魏時代の中国から善正という僧が渡来して入山し、その後、大分側の日田の狩人藤原恒雄が、山中でこの善



(添田町提供)

正に導かれて僧となり、忍辱と名乗ったとか、景雲2年(705)には、修験道の祖と仰がれる役行者が、峰入りを始めたのだとかされたりしています。これらはあくまで伝説ですが、何らかの史実を反映している可能性はあります。実際この山が、太古より神仏が住まう場として崇められ、信仰と修行の場となっていたことは確かでしょう。山を仰ぎ、山中に踏み入ると、それを実感することができます。

平安時代以降になると、確実な史料や文化財の存在によって、英彦山がまさしく九州北部に冠たる霊山となっている様子が分かります。 寛治8年(1094)には、安楽寺天満宮(太宰府天満宮)と争っていた英彦山の衆徒が蜂起し、九州全域を統轄していた役所である大宰府の、実質上の現地責任者であった大宰大弐藤原長房が、都に逃げ帰ったりもしています。神仏と、神官、僧、修験者が共生する聖地であると同時に、世俗的にも充実した力をもった英彦山は、こののち紆余曲折を経ながらも繁栄を続けるのです。

ただそのような英彦山も、明治時代に入り山内の様子を一変させました。明治初年の神仏分離令と、それに伴う 廃仏製釈の波が、この山にも至ったのです。そして以後は、仏教的な側面への意識は薄らいで、近年にまで至っていまし た。しかし最近、英彦山の国指定史跡に向けた調査の中で、失われたと思われていた仏教的な文物が、意外なほど多く 山内に護り伝えられていることが明らかになっています。英彦山神宮をはじめとして、宗教者たちの意識も古来の在り方に 向かっています。神仏が共生する聖地が、難ろうとしているのです。そのような中、つい先日の2月9日の官報告示で、英 彦山が国指定史跡となったことは、まさに吉報であると思います。

当館では史跡指定を記念し、英彦山調査の成果を公にするために、この夏、特別展「霊峰英彦山―神仏と人と自然と―」を計画しています。この機会に類い希なる霊峰の魅力を、あらためて体感していただければと思います。

九歷名品探訪 vol.4

新指定文化財「推定金光寺跡出土品」 **火葬骨壺(太宰府市推定金光寺跡)**

日本列島において遺体を焼いて埋葬する「火葬」が始まったのは飛鳥時代のこととされています。火葬は遺体を焼いて荼毘に付し、焼け残った遺骨を拾い、骨壺(骨蔵器)に納め、その器を埋葬して墓としました。この火葬の風習は鎌倉・室町時代の中世の日本にも受け継がれていきました。

太宰府市の推定金光寺跡は、観世音寺の49の子院(本寺に属する僧侶などが住んだ所)の一つ、金光寺と推定されています。発掘調査では、寺の堂舎と考えられる礎石建物や庭園跡など、14~16世紀に位置づけられる遺構が確認され、背後には遺体の火葬所や、遺骨を埋葬した墓も見つかっています。墓には骨壺が埋められ、その上には板碑や石塔などの石造物が建てられていました。火葬墓に使用されていた骨壺の中には、室町時代の15世紀、中国・明で製作された黒釉陶器の壺や、褐釉陶器壺、さらには朝鮮半島・高麗で製作された青磁壺という当時でも大変貴重な貿易陶磁器類が含まれています。中でもひときわ大きな黒釉陶磁壺は韓国・新安沈没船から引き揚げられた陶磁器にも類例があり、国内出土のものとしては非常に残りの良い希少なものです。これらは当時の観世音寺の活動の一端を示す重要な資料と言えるでしょう。

以上のように、推定金光寺跡の火葬墓から出土した骨壺5点は、15世紀代の陶磁器資料としても価値を持つことから、平成29年3月に「推定金光寺跡出土品」として福岡県の有形文化財に指定されました。





推定金光寺跡出土火葬骨壺と石塔群



「八女地域の歴史を知る in 九州歴史資料館」 「教員のための博物館の日 in 九歴」

当館では、学校と博物館をつなぐ博学連携事業として、学校の先生方を対象に、当館の活動や学校における博物館の活用について紹介する2事業を、特別展の開催に合わせて展開しています。

まず平成28年度に初めて実施した「八女地域の歴史を知る」は、八女地域の小・中学校の先生方を対象とする研修会です。自分たちが暮らす地域の歴史や文化財について、専門家である学芸員から話を聞く、地域の文化財を使った教材について指導主事が紹介する、地域社会に対する理解と愛情を深め、よりよい社会の形成に参画する児童・生徒を育成する教材開発に役立つ「職員研修」です。

また、先生方に純粋に博物館を楽しんでもらいたいとの思いから、地域を限らず参加できる「教員のための博物館の日 in 九歴」を開催しています。普段立ち入ることのできないバックヤードツアー、学芸員による特別展の解説、歴史資料のハンズオン体験など、先生方のためだけのプログラムを展開します。平成28年度から、国立科学博物館の共催となり、平成29年度は9月16日(土)に開催する予定です。



文化財サイエンス・ラボ Study 4

九州初出土・馬冑の修復

特集展示「船原古墳出土馬冑・ガラス装金銅製辻金具」では、九州初 の出土となる馬冑を展示します。日本における古墳時代の馬冑の発見は、 和歌山県の大谷古墳、埼玉県の埼玉将軍山古墳の二例が知られており、 船原古墳の馬冑は国内三例目の貴重な発見となりました。では出土した 馬胄がどの様にして調査・修復されていくのかご存知でしょうか?今回 は、出土後の馬胄の調査・修復の過程についてご紹介します。出土した 直後の馬胄は土や錆に覆われ、一見しただけでは形が分かりにくくなっ ています。加えて、長い時間土中に埋蔵されていたため亀裂や歪みも生 じています。

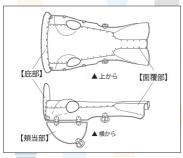


船原古墳遺物埋納杭出土 馬冑

そこでまず初めに、馬胄が現在どの様な状態なのかを知るために X線 CT スキャナによる調査を行ないました。 この調査により、見た目では分からない亀裂や歪みの有無、劣化の程度などを把握することができます。言うな れば、馬冑の健康状態を知ることができるのです。そして、その結果を基にして余分な土や錆を取り除くクリー ニング作業を行いました。

クリーニング作業を終えると馬胄は大小の破片に分かれています。次の修復作業では、これらバラバラの破片 を一点ずつ接合していきます。割れている破片を丹念に観察して接合箇所を見つけ、パズルのピースを組み合わ せるように、本来の馬冑の形状を少しずつ復元していくのです。

この様な修復の過程から、馬冑の詳細な構造が分かってきました。船原古墳の馬冑は、馬の顔を覆う「面覆部」 の上板が鼻先まで一枚の鉄板で作られており、左右の側板を鋲で留めています。馬の頬の部分に吊り下げる半円



馬胄模式図

形の「頬当部」は一枚の鉄板で作られ、概ね半円形をしていました。頬当部の下 前方には、鉸具(バックル)が取り付けられる非常に珍しい構造をしています。 馬の頭の上に立てられた「庇部」は、半円形の帽子のつばのような形をしており、 一枚の鉄板で作られていました。

修復により、船原古墳の馬冑は、これまで日本国内で出土した二例の馬冑と 比べて、より立体的で直線と曲線を組み合わせたデザイン性の高い構造であるこ とが分かりました。九州初出土となる船原古墳の馬冑とその構造やデザインに秘 められた当時の技術力の高さを是非ご自身の目でご覧いただきたいと思います。

展示紹介 平成29年度上半期に開催する展覧会



▶特別展

「霊峰英彦山ー神仏と人と自然とー」

会期 8月5日(土)~9月24日(日) 会場 第1·2·4展示室

▶第39回企画展

「きゅうおにとタイムトラベルー大昔のくらしと国づくりー」

会期 3月22日(水)~7月30日(日) 会場 第2·4展示室

▶第40回企画展

「発掘速報展2017~五ケ山埋蔵銭と発掘されたお茶の里~ |

会期 9月26日(火)~12月24日(日) 会場 第2·4展示室

▶特集展示

「船原古墳出土馬冑・ガラス装金銅製辻金具」

会期 4月25日(火)~6月18日(日) 会場 第1展示室

トパネル展

「ユネスコ無形文化遺産~山・鉾・屋台行事」

会期 5月16日(火)~7月23日(日)会場文化情報広場

▶特集展示

「推定金光寺跡出土品福岡県新指定記念特集展示 『骨を蔵(おさ)める -古代・中世の火葬骨壺-』」

会期 5月30日(火)~7月23日(日) 会場 第1展示室

▶特集展示

「懐かしの旧福岡県庁(仮)」

会期 5月30日(火)~7月23日(日) 会場 第1展示室

トパネル展

「福岡鉄道遺産ものがたり5~筑豊本線・日田彦山線編~」

会期 7月25日(火)~10月1日(日) 会場 文化情報広場

九州歴史資料館・分館行事予定 【平成29年4月~9月】

| 75/IIIE A SALIT OF THE SALIT OF | |
|--|---|
| 九州歴史資料館 | 行事·事業予定 |
| 展示 | 常 設 展 示:「歴史(とき)の宝石箱」(第1展示室)(7月25日(火)~8月4日(金)・9月26日(火)~10月6日(金)は展示替えのため閉室) 特 別 展 示: 8月 5日(土)~ 9月24日(日)「霊峰英彦山-神仏と人と自然と-」 企 画 展 示: 3月22日(水)~ 7月30日(日)「きゅうおにとタイムトラベルー大昔のくらしと国づくり-」 9月26日(火)~12月24日(日)「発掘速報展2017~五ヶ山埋蔵銭と発掘されたお茶の里」 特 集 展 示: 4月25日(火)~ 6月18日(日)「船原古墳出土馬冑・ガラス装金銅製辻金具」 5月30日(火)~ 7月23日(日)「推定金光寺跡出土品福岡県新指定記念特集展示 「骨を蔵(おさ)める -古代・中世の火葬骨壺ー』」 5月30日(火)~ 7月23日(日)「懐かしの旧福岡県庁(仮)」 パ ネ ル 展: 5月16日(火)~ 7月23日(日)「ユネスコ無形文化遺産~山・鉾・屋台行事~」 7月25日(火)~10月 1日(日)「福岡鉄道遺産ものがたり5~筑豊本線・日田彦山線編~」 古 代 体 験: 毎週土・日・祝日に、九歴ボランティアによる古代体験実施中(予約不要。有料・無料有) |
| 講座・イベント | 九 歴 講 座:全12回 毎月第2土曜日(8月は第1土曜日、定員160名。申込不要。11時より整理券配布、13時より開場) 九 歴 ゼ ミ: 4~6月「斉明天皇と天智天皇の時代」(受付終了) 7~9月「大宰府・太宰府天満宮資料を読む~大宰府の歴史編~」(定員50名 要申込、5月より受付開始) タベのギャラリートーク:6月30日(金)・8月25日(金)(16:30~17:30開催、申込不要、要観覧料) 講 演 会:8月20日(日)特別展開催記念講演会 講師:元駒沢大学教授 長野覚氏 イ ベ ン ト:7月 2日(日)きゅうれき七タイベント「アイリッシュハープの調べ(仮)」演者:ハープ奏者 HaRuRu(はるる)氏他8月上旬 こども組紐教室6月頃から募集開始8月後半 なるほど!こども歴史教室9月2日(土)ナイトミュージアムin九歴夏9月24日(日)特別展開催記念茶会 共催:小郡市文化協会裏千家 |
| 発掘調査 | 大宰府史跡調査(蔵司地区)・県内遺跡発掘調査4月~9月 |
| 求 菩 提 資 料 館 〒828-0085 豊前市大字鳥井畑 247 TEL-FAX 0979-88-3203 | 常 設 展:「求菩提修験道の世界」 企 画 展:4月22日(土)~5月28日(日) 2017春の企画展「百花繚乱~森竹孝子の押し花絵~」 4月22日(土)~5月21日(日) 第6回「ふるさと写真コンクール」入賞・入選作品展 史跡ガイド活動:申し込みに応じて豊前市内の史跡をガイドします。 |
| 甘木歴史 資料館 〒838-0068 朝倉市甘木 216-2 TEL・FAX 0946-22-7515 | 常 設 展:第一展示室「朝倉の民俗・工芸資料」 第二展示室「朝倉の考古資料」 春季節公募展: 3月14日(火)~4月2日(日)「あ! さくら展 -春爛漫~桜が主役の作品展-」 *作品展とともに、庭園の桜の花を眺めながら春のひとときをお楽しみください。 春季企画展: 5月2日(火)~7月2日(日)「朝倉の遺跡ロード~筑後川北岸の古代遺跡」 *大分自動車道開通30周年記念展。朝倉を中心に小郡、大刀洗の遺跡や出土した資料の紹介を行い、その所在地をめぐり論争のある「朝倉橘広庭宮」に関連して文化財を展示し、分かりやすく解説します。毎年恒例の「平塚川添遺跡公園トンボ玉講座受講生作品展」もあわせてお楽しみください。 |
| 柳 川 古文書館 〒832-0021 柳川市隅町 71-2 TEL 0944-72-1037 FAX 0944-72-5559 | 企 画 展:~4月3日(月)「松井家・立石家のおひな様」 常 設 展:4月6日(木)~10月8日(日)「古文書をたのしむ―見方・読み方・調べ方」会期中、一部展示品の入替をおこないます *展示替えに伴う臨時休館日:4月4日(火)・5日(水) 古文書入門講座:7月に募集予定、8月~9月の土曜日に実施予定(全4回) 古文書を集中して学ぶ初心者のための講座です。 |



福岡県の指定文化財

とうばるさんじょうあと **唐原山城跡** [国指定史跡 福岡県築上郡上毛町大字下唐原・土佐井]

唐原山城跡は、山国川の支流である友枝川右岸の丘陵 (標高76~83m) に築かれた古代 の山城です。平成10年に発見され、調査の後、平成17年に国指定史跡となりました。外郭線 は約1.7kmで、他の山城と比べて規模が小さい山城です。外郭線上には切石が点在しており、 切石上に版築土塁は確認されておらず、築造途中の状況とみられています。また、切石は大 分県中津城の石垣にも転用されていました。

外郭線は三つの谷を取り込み、第1水門は長さ34.3mを測り、第3水門は長さ15.0mで、石 組みの暗渠を設けていました。また、第3水門のすぐ西側には3間 (7.95m) ×5間 (12.0m) の礎 石総柱建物があり、倉庫と考えられます。



唐原山城跡 全景

至福岡



〒 838-0106 福岡県小郡市三沢 5208-3

a 0942-75-9575

FAX 0942-75-7834

URL http://www.fsg.pref.fukuoka.jp/kyureki/

開館時間 午前9時30分~午後4時30分(入館は午後4時まで) 一般200(150)円 高校生150(100)円 満65歳以上·中学生以下· 観覧料

障がい者(同伴介護者1名)無料 ※土曜日は高校生も無料 ※()内は団体料金(20名以上)

休館 日 月曜日(ただし祝日・振替休日の場合はその翌日)

年末年始(12月28日~1月4日)



《西鉄電車》天神大牟田線三国が丘駅から徒歩約 10 分 《 JR 》鹿児島本線原田駅からタクシーで約5分

●自動車

《九州自動車道》筑紫野 I.C. から鳥栖筑紫野道路経由で約 15 分 《大分自動車道》筑後小郡 I.C.から国道500号線·県道88号線経由で15分 《福岡都市高速》水城出口から国道3号線経由で約25分









編集·発行 九州